



2024年3月期（第56期） 第2四半期 決算説明会資料

加賀電子株式会社
< プライム市場 8154 >
2023年11月24日

KAGA ELECTRONICS CO., LTD.

目次

- **2024年3月期 第2四半期決算概要** P- 3～

2024年3月期 第2四半期 サマリー
業績ハイライト/セグメント別概況
バランスシート/キャッシュフロー/通期業績予想

- **経営トピックス** P-28～

上期総括と下期見通し/在庫削減
EMSビジネスについて：
メキシコ新工場建設/競争力の強化、生産能力の増強
生産能力増強の背景、事業環境の変化/成長イメージ
人的投資への取り組み

- **参考情報** P-37～

2024年3月期 第2四半期 決算概要

上席執行役員 管理本部長
石原 康広

加賀電子の石原でございます。
平素よりご支援、お引き立てを頂き、誠にありがとうございます。
また、本日は弊社の決算概要説明を御視聴頂き、厚く御礼申し上げます。

それでは、私より、2024年3月期第2四半期決算の概要をご説明申し上げます。

2024年3月期第2四半期 サマリー

2024年3月期
第2四半期実績

- 売上高は、前期比237億円（7.9%）減収の2,750億円。情報機器事業、その他事業は売上伸長するも、主力の電子部品事業においては**スポット需要の消失や顧客の在庫調整の影響**が一部顕在化し減収。
- 営業利益は、前期比44億円（24.4%）減益の138億円。売上減に伴う売上総利益減少に加え、1Qに計上した特定取引先の民事再生法申請に伴う貸倒引当等が利益を押し下げ。**スポット需要消失および貸倒引当の一過性要因を除く実質ベースの「稼ぐ力」は、前期並みの水準を維持。**
- 四半期純利益は、前期比20億円（15.0%）減益の114億円。**投資有価証券売却益、企業買収に伴う負ののれん益を特別利益として計上。**
- 社内計画に対して、**売上高は150億円、営業利益は38億円の上振れ。**1Qに引き続き、2Qも上振れモメンタムを持続。

2024年3月期
業績予想

- **上振れが続く上期の収益モメンタムを踏まえて上方修正を頭入れするも、先行き不透明感が一段と強まる経営環境のもと、今後の需要動向を慎重に見極めたく、現時点での業績修正は保留する。**

	売上高	営業利益	当期純利益
通期予想 (2023.5.11公表)	5,500億円	250億円	180億円
2Q進捗率	50.0%	55.5%	63.4%



3

<サマリー>

売上高は、前年同期比237億円減収の2,750億円、
営業利益は、前年同期比44億円減益の138億円となりました。

主力の電子部品事業における、スポット需要の消失が減収減益の主な理由となります。それに、顧客在庫調整の影響の一部顕在化、1Qに計上した特定取引先の民事再生法申請に伴う貸倒引当などもあり、売上や利益を押し下げる結果となりました。

四半期純利益につきましては、投資有価証券の売却益、企業買収に伴う負ののれんの発生益などの計上により、前年同期比20億円減益の114億円となりました。一方、スポット需要の消失や顧客在庫調整の影響を織り込んだ社内計画に対しては、売上高で150億円、営業利益では38億円の上振れとなりました。スポット需要の消失や貸倒引当等の一過性要因を除いた、実質ベースの「稼ぐ力」は、前年並みの水準を維持しており、1Qに引き続き、この2Qも社内計画に対する上振れ傾向は持続しております。

<通期業績予想>

5月11日公表の通期業績予想に対する2Qの進捗ですが、売上高で50%、営業利益で55.5%、当期純利益では63.4%と、いずれも概ね順調な進捗状況で推移しております。

このような業績の進捗状況、社内計画に対する上振れ傾向を踏まえて、通期業績予想の上方修正の是非についても議論・検討をいたしました。期初に比べても先行きの不透明感が一段と強まっていることを考慮し、今後の需要動向も慎重に見極めたく、現時点での業績予想は据え置かせていただきました。

2024年3月期第2四半期 業績ハイライト

(単位：百万円)

	2023/3期 2Q実績	2024/3期 2Q実績	前年比	2024/3期 業績予想 (2023年5月11日公表)	進捗率
売上高	298,760	275,044	▲7.9%	550,000	50.0%
売上総利益	40,001 13.4%	35,160 12.8%	▲12.1%	—	—
販売費及び一般管理費	21,639 7.2%	21,284 7.7%	▲1.6%	—	—
営業利益	18,361 6.1%	13,876 5.0%	▲24.4%	25,000 4.5%	55.5%
経常利益	18,932 6.3%	13,945 5.1%	▲26.3%	25,000 4.5%	55.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	13,412 4.5%	11,404 4.1%	▲15.0%	18,000 3.3%	63.4%
EPS (1株当たり四半期純利益、円)	510.88	434.23	—	685.42	—
為替レート 円/US\$	133.97	141.00	—	135.00	—

(注)：1. 為替による影響額は、売上高が約6,072百万円、営業利益が約194百万円です。
2. 「x.x%」は、売上高対比の率を表します。



4

次ページの業績ハイライトは、ただいまご説明した通りであります。

当第2四半期におけるEPS（一株当たり四半期純利益）は、434円23銭となりました。

また、当第2四半期における期中平均為替レートは、ドル・円で141円となっており、前年同期比で約7円、通期業績予想の想定レート135円と比べ6円円安に振れております。

為替の変動による前年同期比の影響額は、売上高で約60億円の増収、営業利益では約1億9千万円の増益影響となっております。また、社内計画比では営業利益で約7千万円の増益影響となっております。

2024年3月期第2四半期 セグメント別業績

(単位：百万円)

		2023/3期 2Q実績	2024/3期 2Q実績	前年比	2024/3期 業績予想 (2023年5月11日公表)	進捗率
電子部品	売上高	268,464	242,564	▲9.6%	471,500	51.4%
	セグメント利益	16,617 6.2%	11,785 4.9%	▲29.1%	20,700 4.4%	56.9%
情報機器	売上高	19,597	20,715	5.7%	45,000	46.0%
	セグメント利益	965 4.9%	1,280 6.2%	32.7%	2,500 5.6%	51.2%
ソフトウェア	売上高	1,307	1,225	▲6.3%	4,500	27.2%
	セグメント利益	95 7.3%	112 9.2%	18.2%	300 6.7%	37.7%
その他	売上高	9,392	10,539	12.2%	29,000	36.3%
	セグメント利益	658 7.0%	623 5.9%	▲5.3%	1,500 5.2%	41.5%
合計	売上高	298,760	275,044	▲7.9%	550,000	50.0%
	セグメント利益	18,361 6.1%	13,876 5.0%	▲24.4%	25,000 4.5%	55.5%

(注)：1. セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。
2. 「×.×%」は利益率を表します。



5

セグメント別の業績です。

主力の電子部品事業におきましては、部品販売では半導体・電子部品の供給不足緩和により、前年度まで収益に寄与したスポット需要が消失したことに加え、顧客における在庫調整の影響が一部顕在化し、対前期比では減収減益となりました。EMSビジネスでは車載向けは半導体・電子部品の需給改善により伸長するも、医療機器・産業機器向けは主要顧客の在庫調整の影響もあり、同様に対前期比では減収減益となりました。一方、電子部品事業の通期業績予想に対しては、売上高・セグメント利益ともに50%を超える進捗で推移しております。

情報機器事業におきましては、教育機関向けパソコン販売、セキュリティソフトやPC周辺機器等の販売が堅調に推移、またLED設置ビジネスでは前年度から本格展開している大口案件が寄与し、対前期比で増収増益となりました。セグメント利益は通期業績予想の50%を超える進捗で推移し、利益率も前期実績、社内計画の数値を上回っております。

ソフトウェア事業では、売上高はほぼ前年並み、セグメント利益は増益、利益率も情報機器事業と同様に前期実績、社内計画の数値を上回っております。

その他事業については、売上高は対前期比で増収、セグメント利益はほぼ前年並みとなりました。

特にセグメント利益率については、すべての事業セグメントにおいて、通期社内計画の数値を上回り、全体では通期計画4.5%に対して5%の営業利益率で上期を着地しております。

8ページ～9ページにも事業セグメント別の記載がありますので、併せてご覧ください。

2024年3月期第2四半期 会社別業績

(単位：百万円)

		2022/3期 2Q実績		2023/3期 2Q実績		2024/3期 2Q実績		前年比
加賀電子	売上高	125,272		168,400		156,408		▲7.1%
	売上総利益	18,850	15.1%	26,734	15.9%	23,651	15.1%	▲11.5%
	営業利益	6,402	5.1%	12,235	7.3%	10,568	6.8%	▲13.6%
加賀FEI	売上高	68,240		98,757		98,766		0.0%
	売上総利益	6,325	9.3%	11,301	11.4%	9,632	9.8%	▲14.8%
	営業利益	1,067	1.6%	5,214	5.3%	2,422	2.5%	▲53.5%
エクセル	売上高	29,495		31,602		19,869		▲37.1%
	売上総利益	2,103	7.1%	1,991	6.3%	1,925	9.7%	▲3.3%
	営業利益	966	3.3%	866	2.7%	865	4.4%	▲0.1%
合計	売上高	223,009		298,760		275,044		▲7.9%
	売上総利益	27,133	12.2%	40,001	13.4%	35,160	12.8%	▲12.1%
	営業利益	8,300	3.7%	18,361	6.1%	13,876	5.0%	▲24.4%

(注)：1. 売上総利益および営業利益については、3社間での連結調整前の数値を記載しております。
2. 「×.×%」は利益率を表します。



6

続いて会社別の業績において、着目して頂きたいポイントをご説明いたします。

従来からの加賀電子につきましては、スポット需要の消失の影響が大きく対前期比で減収減益となっておりますが、スポット需要の恩恵がまだ小さかった前々期との比較においては売上高・営業利益・営業利益率、いずれも大きく伸長していることが確認出来ます。

加賀FEIグループにおいては、スポット需要の消失があったものの、売上高は前期水準を維持しており、前々期との比較においても販売力の大幅な向上が見られます。特定取引先に対する貸倒引当などの計上による利益の押し下げもありましたが、加賀電子と同様、前々期との比較では営業利益、営業利益率ともに大きく伸長していることが確認出来ます。

エクセルグループにおいては、大口顧客向け売上の減少はあったものの、販売ミックス良化により収益力を高め、ほぼ前期並みの売上総利益・営業利益を維持し、営業利益率も4.4%と大きく向上させております。

対前年同期比では減収減益ではありますが、これまでの流れの中で一過性の要因なども加味して見て頂ければ、特に加賀FEIグループ、エクセルグループ共にM&A後のPMIが順調に進み、販売力・収益力ともに大変逞しく変化・成長しており、従来からの加賀電子を含む全ての企業グループにおいて、着実に「稼ぐ力」が増していることを感じ取って頂けるものと思います。

7ページ目のグラフも併せてご覧ください。

2024年3月期第2四半期 M&Aの影響

(単位：百万円)

売上高

加賀電子は、スポット需要の消失等により売上減少。
エクセルは、大口顧客向け売上が減少。



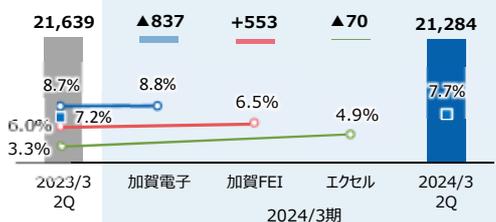
売上総利益 / 売上総利益率

加賀電子、加賀FEIは、スポット需要消失等により減益。
エクセルは、販売ミックス良化もありほぼ前年並み。



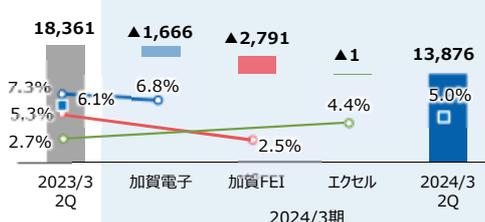
販管費 / 販管費率

加賀電子、エクセルは、売上減に伴い販管費減少。
加賀FEIは、貸倒引当繰り入れ等により費用増。



営業利益 / 営業利益率

加賀電子、加賀FEIは減益。
エクセルは営業利益率向上し、前年並みの水準確保。



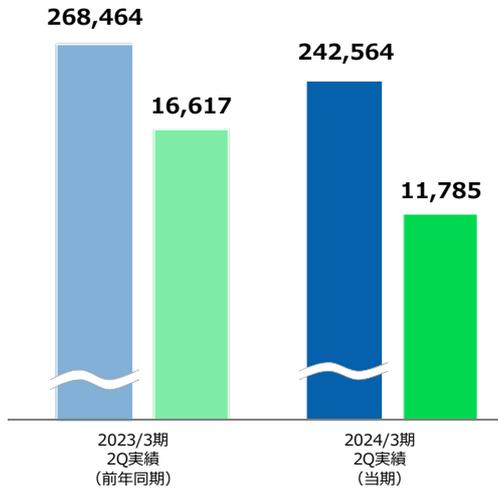
(注)：売上総利益および営業利益については、3社間での連結調整前の数値を記載しております。7
なお、連結調整額は売上総利益は▲47百万円、営業利益は19百万円です。

2024年3月期第2四半期業績：電子部品事業

売上高・セグメント利益

(単位：百万円)

■/■ 売上高
■/■ セグメント利益



前年比

- 売上高 ▶ ▲25,899百万円 9.6%減
- セグメント利益 ▶ ▲4,831百万円 29.1%減

・ 部品販売ビジネスは、半導体・電子部品の供給不足緩和により、前年度まで収益寄与したスポット需要が解消したことに加え、顧客における在庫調整の影響が一部顕在化し、減収減益。

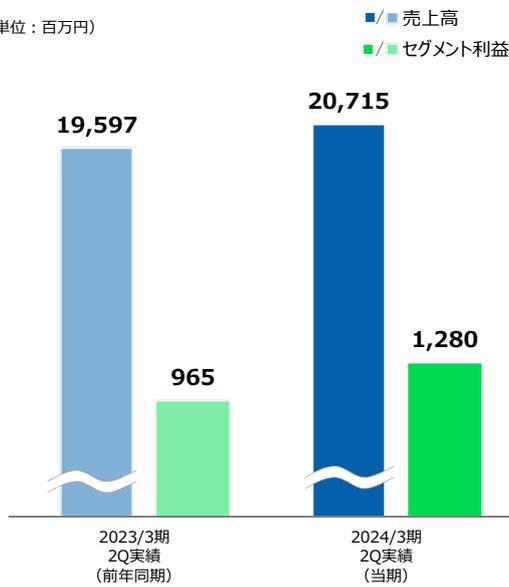
・ EMSビジネスは、車載向けは半導体・電子部品の需給改善により伸長するも、医療機器、産業機器向けは主要顧客での在庫調整の影響もあり減収減益。



2024年3月期第2四半期業績：情報機器事業

売上高・セグメント利益

(単位：百万円)



前年比

- 売上高 ▶ **+1,118百万円 5.7%増**
- セグメント利益 ▶ **+315百万円 32.7%増**

- ・ 教育機関向けパソコンの販売は、アカウント数も拡大し、順調に推移。
- ・ セキュリティソフトやPC周辺製品等の販売も堅調。
- ・ LED設置ビジネスは、前年度から本格展開している大口案件が寄与。



2024年3月期第2四半期 業績ハイライト（直近3か月）

参考

(単位：百万円)

	2023/3期 2Q実績	2024/3期 1Q実績	2024/3期 2Q実績	前年同期比	直前期比
売上高	149,458	137,694	137,350	▲8.1%	▲0.3%
売上総利益	20,163 13.5%	17,553 12.7%	17,607 12.8%	▲12.7%	0.3%
販売費及び一般管理費	11,621 7.8%	10,559 7.7%	10,725 7.8%	▲7.7%	1.6%
営業利益	8,541 5.7%	6,994 5.1%	6,882 5.0%	▲19.4%	▲1.6%
経常利益	9,073 6.1%	6,909 5.0%	7,035 5.1%	▲22.5%	1.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	6,427 4.3%	5,767 4.2%	5,636 4.1%	▲12.3%	▲2.3%
EPS (1株当たり四半期純利益、円)	244.79 -	219.63 -	214.60 -	-	-

(注)：「×.×%」は、売上高対比の率を表します。



10

直近3か月の業績は、第1四半期とほぼ同水準の売上高・営業利益・利益率で着地しており、1Qに引き続き2Qも社内計画に対する上振れモメンタムを持続しております。

11ページ～15ページにも四半期別の情報がございますので、併せてご覧ください。

2024年3月期第2四半期 セグメント別業績（直近3カ月）

参考

（単位：百万円）

		2023/3期 2Q実績	2024/3期 1Q実績	2024/3期 2Q実績	前年同期比	直前期比
電子部品	売上高	134,986	120,015	122,549	▲9.2%	2.1%
	セグメント利益	7,599 5.6%	5,922 4.9%	5,862 4.8%	▲22.9%	▲1.0%
情報機器	売上高	8,449	12,050	8,664	2.5%	▲28.1%
	セグメント利益	400 4.7%	746 6.2%	533 6.2%	33.4%	▲28.5%
ソフトウェア	売上高	808	577	647	▲19.9%	12.3%
	セグメント利益	129 16.0%	▲4 ▲0.8%	117 18.1%	▲9.0%	—
その他	売上高	5,213	5,050	5,488	5.3%	8.7%
	セグメント利益	408 7.8%	291 5.8%	331 6.0%	▲18.9%	13.8%
合計	売上高	149,458	137,694	137,350	▲8.1%	▲0.3%
	セグメント利益	8,541 5.7%	6,994 5.1%	6,882 5.0%	▲19.4%	▲1.6%

（注）：1. セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。
2. 「×.×%」は利益率を表します。

2024年3月期第2四半期 会社別業績（直近3カ月）

参考

（単位：百万円）

		2023/3期 2Q実績	2024/3期 1Q実績	2024/3期 2Q実績	前年同期比	直前期比
加賀電子	売上高	84,061	78,615	77,792	▲7.5%	▲1.0%
	売上総利益	13,693 16.3%	12,146 15.5%	11,504 14.8%	▲16.0%	▲5.3%
	営業利益	5,983 7.1%	5,663 7.2%	4,905 6.3%	▲18.0%	▲13.4%
加賀FEI	売上高	51,005	48,135	50,631	▲0.7%	5.2%
	売上総利益	5,516 10.8%	4,379 9.1%	5,252 10.4%	▲4.8%	19.9%
	営業利益	2,173 4.3%	797 1.7%	1,625 3.2%	▲25.2%	103.9%
エクセル	売上高	14,392	10,943	8,925	▲38.0%	▲18.4%
	売上総利益	1,004 7.0%	1,014 9.3%	910 10.2%	▲9.3%	▲10.2%
	営業利益	403 2.8%	485 4.4%	379 4.3%	▲6.0%	▲21.8%
合計	売上高	149,458	137,694	137,350	▲8.1%	▲0.3%
	売上総利益	20,163 13.5%	17,553 12.7%	17,607 12.8%	▲12.7%	0.3%
	営業利益	8,541 5.7%	6,994 5.1%	6,882 5.0%	▲19.4%	▲1.6%

（注）：1. 売上総利益および営業利益については、3社間での連結調整前の数値を記載しております。
2. 「×.×%」は利益率を表します。

2024年3月期第2四半期 M&Aの影響（直近3カ月）

参考

(単位：百万円)

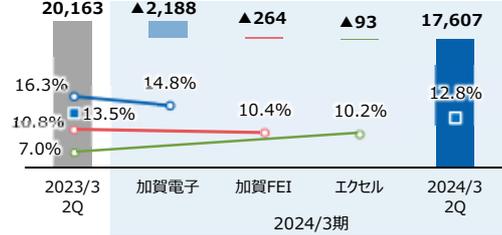
売上高

電子部品事業の売上減により3社とも減収。



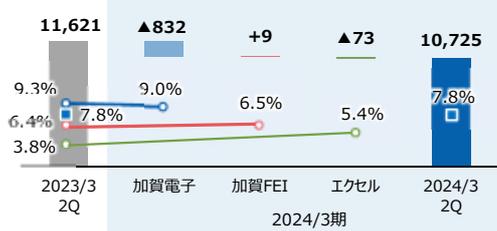
売上総利益 / 売上総利益率

売上減に伴い3社とも減益。



販管費 / 販管費率

加賀電子、エクセルは、売上減に伴い販管費減少。



営業利益 / 営業利益率

加賀電子、加賀FEIは減益。
エクセルは営業利益率向上し、前年並みの水準を確保。



(注)：売上総利益および営業利益については、3社間での連結調整前の数値を記載しております。13
なお、連結調整額は売上総利益は▲60百万円、営業利益は▲28百万円です。

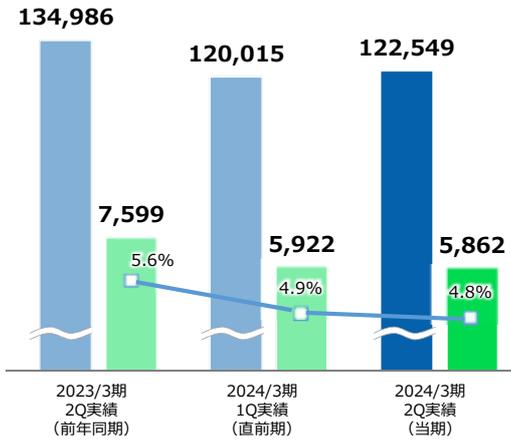
2024年3月期第2四半期業績：電子部品事業（直近3カ月）

参考

売上高・セグメント利益

(単位：百万円)

■/■ 売上高
■/■ セグメント利益



前年同期比

- 売上高 ▶ ▲12,437百万円 9.2%減
- セグメント利益 ▶ ▲1,736百万円 22.9%減

直前期比

- 売上高 ▶ +2,533百万円 2.1%増
- セグメント利益 ▶ ▲60百万円 1.0%減



(注)：「x.x%」は利益率を表します。

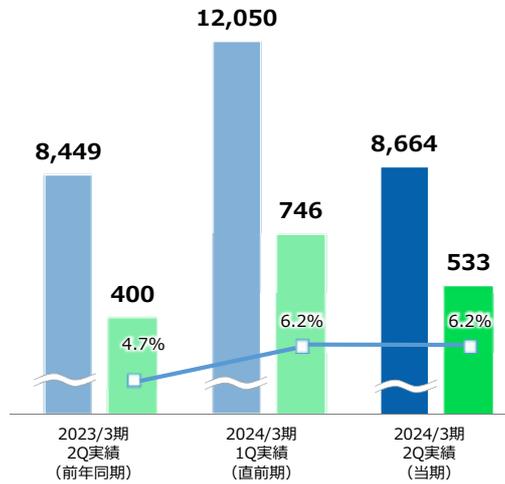
2024年3月期第2四半期業績：情報機器事業（直近3カ月）

参考

売上高・セグメント利益

(単位：百万円)

■/■ 売上高
■/■ セグメント利益



前年同期比

● 売上高 ▶ **+215**百万円 **2.5%増**
● セグメント利益 ▶ **+133**百万円 **33.4%増**

直前期比

● 売上高 ▶ **▲3,385**百万円 **28.1%減**
● セグメント利益 ▶ **▲212**百万円 **28.5%減**



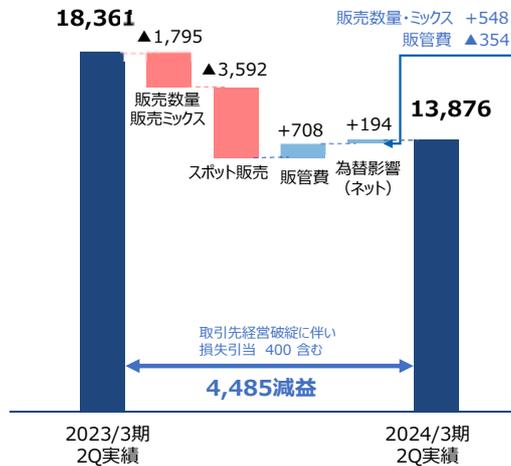
(注)：「x.x%」は利益率を表します。

2024年3月期第2四半期 営業利益変動要因

参考

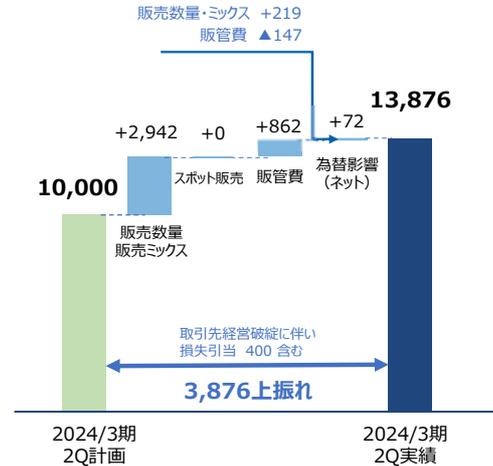
前年同期比

(単位：百万円)



社内計画比

(単位：百万円)

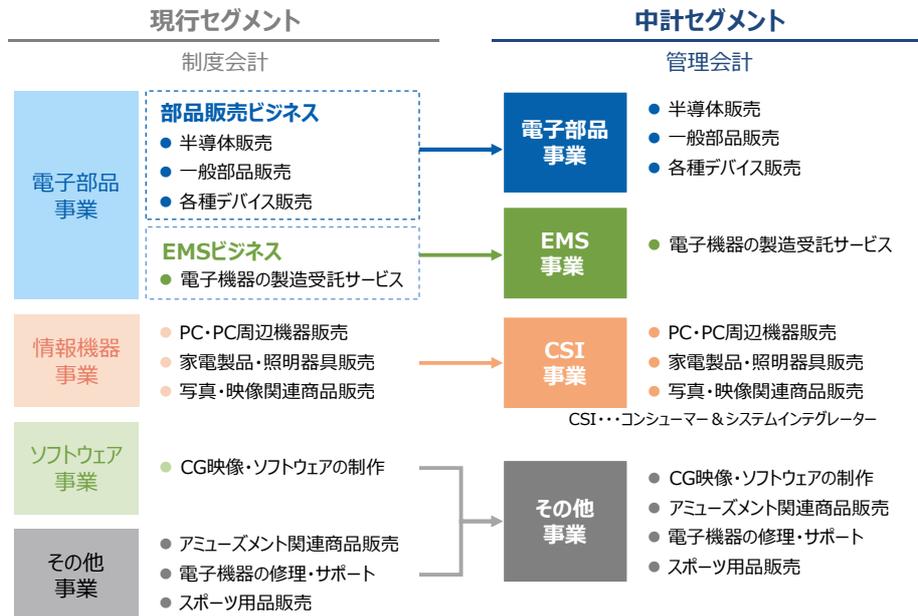


営業利益の変動要因について、ご説明いたします。

対前年同期比では44億円の減益となりましたが、主な要因は、スポット販売の消失による36億円の減益が大半を占め、販売数量の減少や販売ミックスの変動による12億円の減益、販管費の節減による4億円の増益という内訳となっております。

一方、社内計画比では38億円の増益となりました。主な要因としては、販売数量の増加・販売ミックスの変動により31億円の増益、販管費の節減によって7億円の増益という内訳となっております。

制度会計としての現行セグメントでの継続開示と併せ、新中計に沿ったセグメントによる任意開示を行う



2024年3月期第2四半期 中計セグメント別業績

参考

(単位：百万円)

		2022/3期 2Q実績	2023/3期 2Q実績	2024/3期 2Q実績	前年比
電子部品	売上高	144,790	202,867	184,368	▲9.1%
	セグメント利益	3,948 2.7%	11,689 5.8%	8,002 4.3%	▲31.5%
EMS	売上高	53,453	69,486	62,122	▲10.6%
	セグメント利益	3,322 6.2%	5,311 7.6%	4,143 6.7%	▲22.0%
CSI	売上高	18,713	19,597	20,715	5.7%
	セグメント利益	910 4.9%	965 4.9%	1,280 6.2%	32.7%
その他	売上高	6,052	6,809	7,837	15.1%
	セグメント利益	64 1.1%	369 5.4%	375 4.8%	1.6%
合計	売上高	223,009	298,760	275,044	▲7.9%
	セグメント利益	8,300 3.7%	18,361 6.1%	13,876 5.0%	▲24.4%

(注)：1. セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。
2. 「×.×%」は利益率を表します。

2024年3月期第2四半期 中計セグメント別業績（直近3カ月）

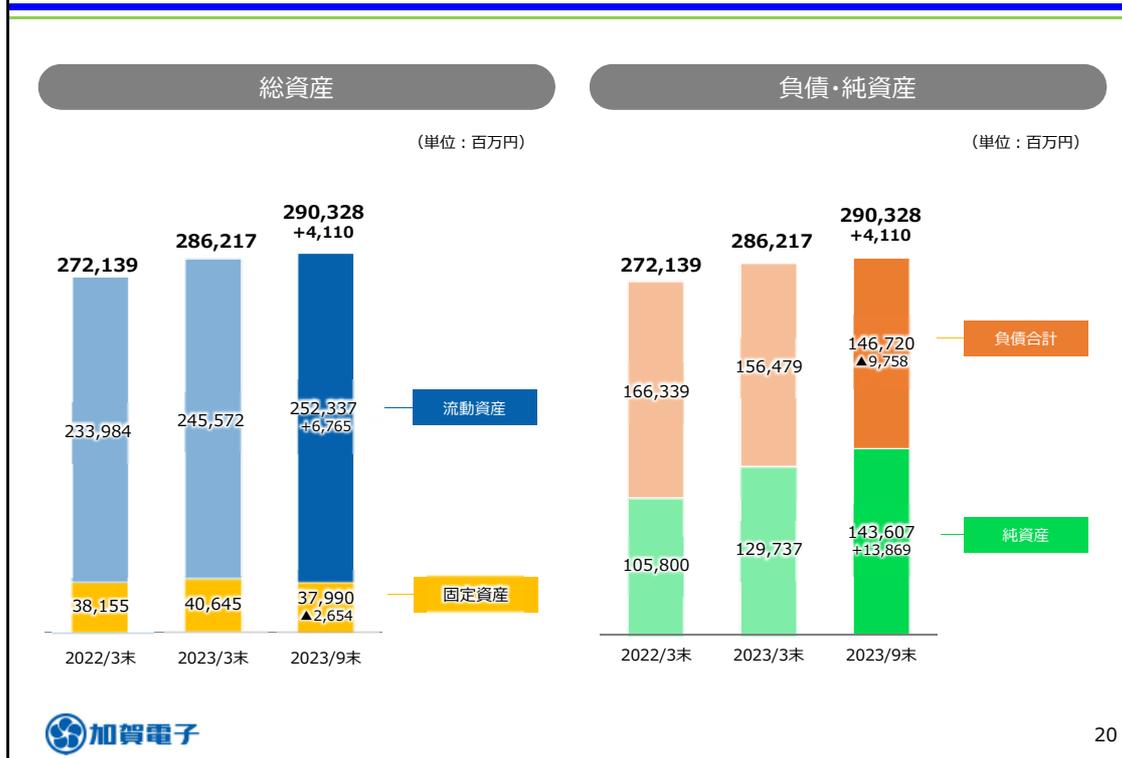
参考

（単位：百万円）

		2023/3期 2Q実績 (前年同期)	2024/3期 1Q実績 (直前期)	2024/3期 2Q実績 (当期)	前年同期比	直前期比
電子部品	売上高	101,422	90,115	94,253	▲7.1%	4.6%
	セグメント利益	5,148 5.1%	3,695 4.1%	4,307 4.6%	▲16.3%	16.6%
EMS	売上高	35,619	31,773	30,348	▲14.8%	▲4.5%
	セグメント利益	2,698 7.6%	2,433 7.7%	1,709 5.6%	▲36.7%	▲29.8%
CSI	売上高	8,449	12,050	8,664	2.5%	▲28.1%
	セグメント利益	400 4.7%	746 6.2%	533 6.2%	33.4%	▲28.5%
その他	売上高	3,967	3,754	4,083	2.9%	8.8%
	セグメント利益	289 7.3%	81 2.2%	294 7.2%	1.6%	262.7%
合計	売上高	149,458	137,694	137,350	▲8.1%	▲0.3%
	セグメント利益	8,541 5.7%	6,994 5.1%	6,882 5.0%	▲19.4%	▲1.6%

(注)：1. セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。
2. 「×.×%」は利益率を表します。

貸借対照表主要項目



ここからは、貸借対照表の状況について、ご説明いたします。
始めに資産の部となります。

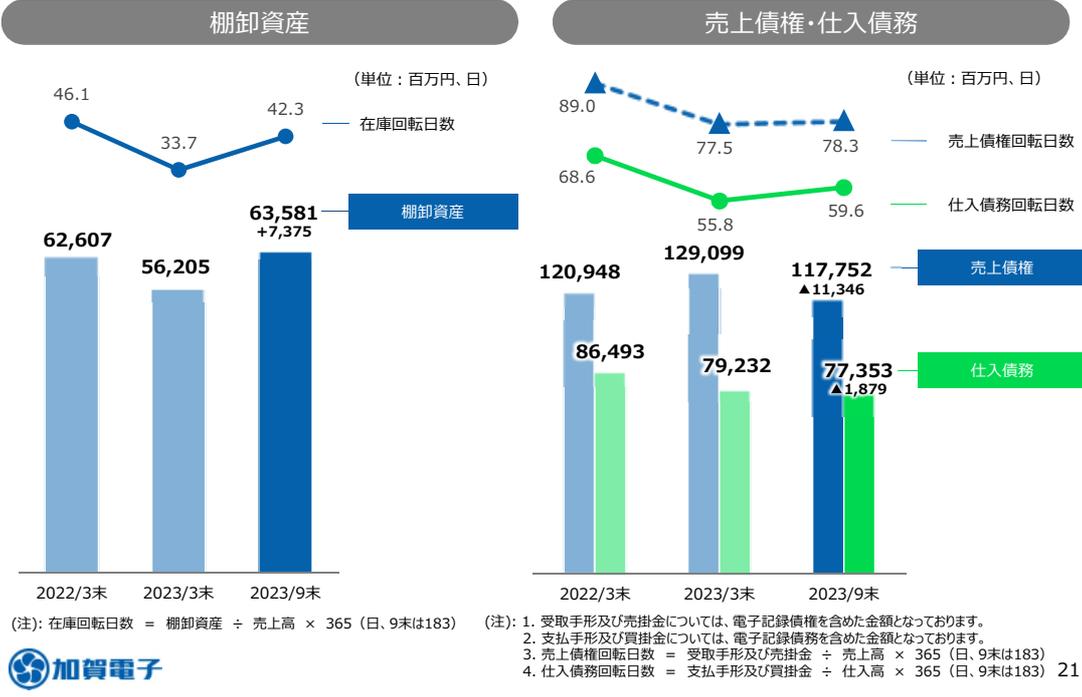
流動資産は、現預金の増加などにより対前期末比で67億円増加し2,523億円に、固定資産は、償却や投資有価証券の売却などにより対前期末比で26億円減少した380億円となり、総資産合計では、対前期末比で41億円増加した2,903億円となりました。

負債の部は、未払法人税の納付、未払費用の支払などにより対前期末比で97億円減少し1,467億円に、純資産の部は、利益剰余金の積み増しなどにより対前期末比で138億円増加した1,436億円となりました。

流動資産の増加、流動負債の減少により、流動比率は215.6%と改善しております。

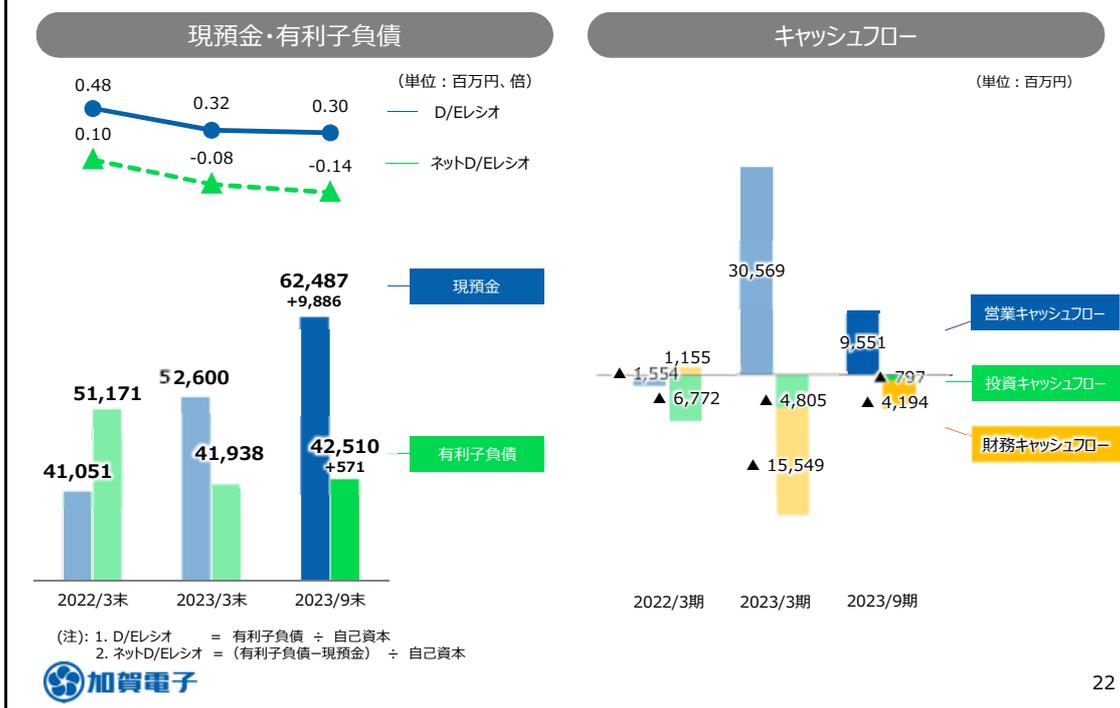
また、自己資本比率は前期末の45.3%から4.1ポイント改善した49.4%となり、加賀FEIグループのM&Aを行う以前の水準に回復してきております。

貸借対照表主要項目



棚卸資産は、主要顧客の在庫調整などの影響もあり対前期末比で73億円増加した635億円となりました。在庫回転日数も42日と上昇傾向にありますので、改めて期末に向けた在庫削減の取り組みを強化しているところであります。

貸借対照表主要項目/キャッシュフロー



有利子負債は前期末から大きな変動はなく425億円、利益獲得による自己資本の積み増しによりD/ELシオは0.3%と低く抑えられております。

現預金残高は対前期末比で98億円増加した624億円となり、現預金の積み増しによって、ネットD/ELシオは-0.14%と前期末に引き続きマイナス値で低く抑えられており、次なるステージに備えた財務基盤の健全性・体質強化に努めているところであります。

2024年3月期業績予想

2024年3月期 通期業績予想

(単位：百万円)

	2023/3期 実績	2024/3期 予想 (2023年5月11日公表)	前年比
売上高	608,064	550,000	▲9.5%
営業利益	32,249 5.3%	25,000 4.5%	▲22.5%
経常利益	32,739 5.4%	25,000 4.5%	▲23.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	23,070 3.8%	18,000 3.3%	▲22.0%
EPS (1株当たり当期純利益、円)	878.65 -	685.42 -	-
ROE	19.6% -	13.3% -	▲6.3pt
年間配当金 (円)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 220.00 普通配当 140.00 記念配当 10.00 特別配当 70.00 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 220.00 普通配当 220.00 </div>	-

(注)：「 x.x% 」は利益率を表します。



以上のような第2四半期の業績の進捗、社内計画に対する上振れ傾向を踏まえて、期初にお示した通期業績予想売上高5,500億円、営業利益・経常利益250億円、当期純利益180億円に関して、上方修正の是非について、冒頭に申し上げました通り、社内でも議論・検討をいたしましたが、先行きの不透明感が一段と強まっていることに加え、今後の需要動向も慎重に見極めたく、通期業績予想、年間220円の配当金、ともに現時点においては変更をせず、据え置かせていただきました。

なお、通期業績予想を踏まえた、当期末時におけるROEは13.3%を見込んでおります。

私からの、当第2四半期の決算概要説明は以上となります。
御視聴、誠にありがとうございました。

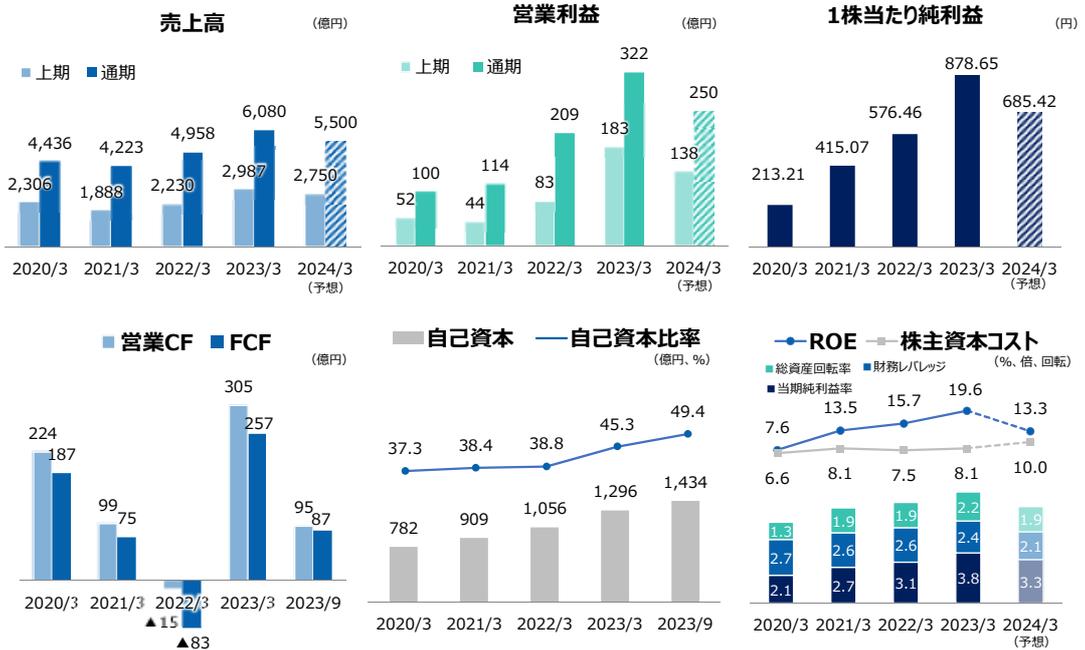
2024年3月期 セグメント別業績予想

(単位：百万円)

		2023/3期 実績	2024/3期 予想 (2023年5月11日公表)	前年比
電子部品	売上高	539,342	471,500	▲12.6%
	セグメント利益	28,314 5.2%	20,700 4.4%	▲26.9%
情報機器	売上高	43,680	45,000	3.0%
	セグメント利益	2,449 5.6%	2,500 5.6%	2.1%
ソフトウェア	売上高	2,998	4,500	50.1%
	セグメント利益	286 9.6%	300 6.7%	4.6%
その他	売上高	22,044	29,000	31.6%
	セグメント利益	1,101 5.0%	1,500 5.2%	36.1%
合計	売上高	608,064	550,000	▲9.5%
	セグメント利益	32,249 5.3%	25,000 4.5%	▲22.5%

(注)：1. セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。
2. 「×.×%」は利益率を表します。

直近5年の業績トレンド



経営トピックス

代表取締役 社長執行役員
門 良一

加賀電子社長の門でございます。

平素は当社のIR活動にご支援、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

それではこれより、2024年3月期上期の「経営トピックス」をご報告させていただきます。

主な内容は、決算に関すること、EMSビジネスに関すること、人的資本への取り組み、の3点であります。

2024年3月期2Q決算より：上期総括と下期見通し

<p>期初予想の前提 2Qまでの進捗</p>	<p>前提 電子部品事業において「在庫調整の影響」「スポット需要の剥落」を織り込む 進捗 ①スポット需要の剥落：想定通り ②在庫調整の影響：一部顕在化するも、想定していたほどは発現せず →前期比減収減益も、社内計画比[売上高150億円・営業利益38億円]上振れ</p>															
<p>電子部品事業 2Qの増減要因</p>	<p>●電子部品事業2Q売上の主な減収要因</p> <table border="1" data-bbox="507 488 1241 658"> <thead> <tr> <th>2023/3期</th> <th>2024/3期</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2,684億円</td> <td>2,425億円</td> <td>▲259億円</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>▲155億円：スポット販売</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>▲130億円：エクセル大口取引</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>+25億円</td> </tr> </tbody> </table> <p>●売上トップ20社向けの販売状況 調整組：産機、医療、空調など …▲130億円 堅調組：車載、遊技、民生など …+170億円</p>	2023/3期	2024/3期		2,684億円	2,425億円	▲259億円			▲155億円：スポット販売			▲130億円：エクセル大口取引			+25億円
2023/3期	2024/3期															
2,684億円	2,425億円	▲259億円														
		▲155億円：スポット販売														
		▲130億円：エクセル大口取引														
		+25億円														
<p>2024年3月期 下期見通し</p>	<p>●アップサイド：代替販売やスポット販売からの新規取引継続で上振れ基調持続 ●ダウンサイド：在庫調整の影響が下期ずれ込みの可能性 ●加えて、地政学リスクの高まり等、不透明感が一段と強まる経営環境に鑑み、現時点での業績上方修正を保留</p>															



まず、2024年3月期上期決算に対する総括と、通期の見通しについてご説明いたします。

今期、「減収減益予想」の前提としては、電子部品事業において半導体・電子部品の需給緩和にともなう、「在庫調整の影響」と、前期、前々期と収益寄与があった「スポット需要の剥落」という2つの要因を織り込んだためであります。

第2四半期までの進捗をみますと、電子部品事業の売上高は前期比259億円の減収となりましたが、社内計画比では170億円の**上振れ**となり、全体でも150億円**上振れ**しました。この結果から、スポット需要の剥落は想定通りであったものの、在庫調整の影響は想定していたほど発現していないとみています。

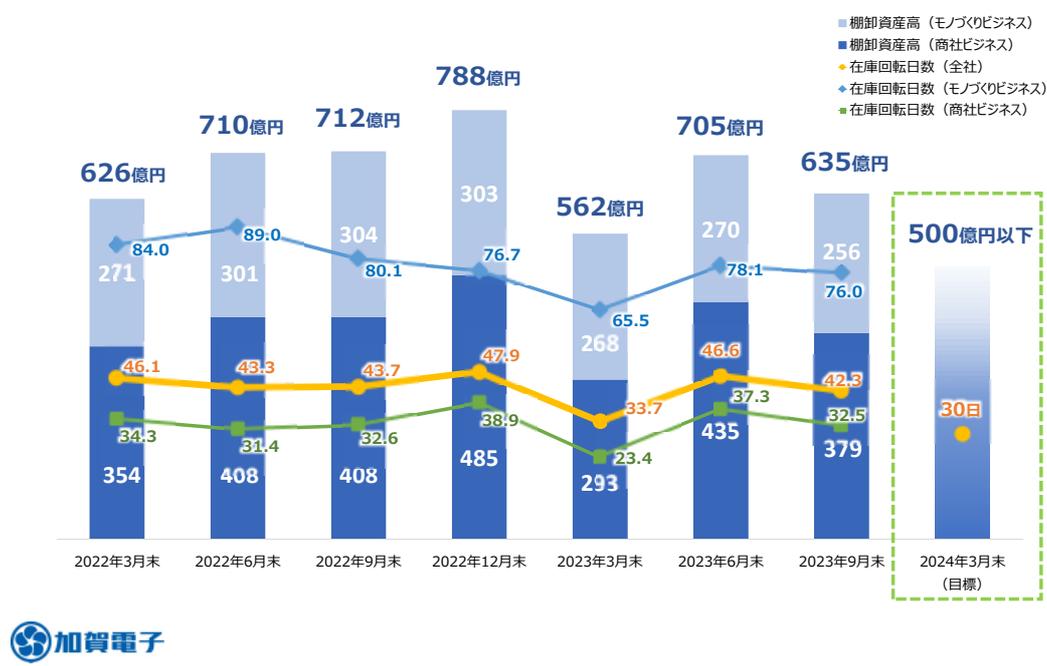
さらに、この電子部品事業の減収の主な要因は、スポット需要の剥落以外に、エクセルにおける大口取引の減少があり、これらを除くとほぼ前期並みとなります。また、主要取引先となる売上トップ20社向けの前期比増減をみますと、産業機器、医療、空調向けは在庫調整の影響が顕在化し約130億円のマイナスとなった一方、車載、遊技、民生向けは堅調に推移し約170億円のプラス、堅調組が優勢な状況でもありました。

これらの状況を踏まえ、下期を展望しますと、アップサイドとしては、代替販売やスポット販売からの新規取引もあり「堅調組」の上振れ継続が期待されること、ダウンサイドとしては、「調整組」で在庫調整の影響が下期にずれ込むリスクがあること、といったプラス/マイナスが混在しており、これらの推移を慎重に見極める必要があると考えています。加えて、地政学リスクの高まりなど、経営環境は一段と不透明感が増しています。

こういった状況を総合的に勘案し、現時点では業績予想の修正は保留させていただくこといたしました。

2024年3月期2Q決算より：在庫削減

2024年3月末に棚卸資産高500億円以下、在庫回転日数30日を目指す



29

続きまして、当社の経営上の重要施策の一つとして、絶えず目配りを利かせている「在庫の削減」に関して、であります。

このグラフは、当社の連結在庫を、EMSを中心とした「モノづくり」ビジネスと部品販売を中心とした「商社」ビジネスに分解してお示しております。

前回の説明会でもお伝えしましたが、2022年度を通じて徐々に積みあがってきた在庫は、期末には500億円台まで戻すことができました。

特に、商社ビジネスは手離れが良いため、一気にポジションを落とすことができました。

その後、6月末で705億円に増加しましたが、9月末には635億円と再び減少フェーズに入りました。

ただし、前期末の水準にはまだ届いておらず、さらなる削減が必要と認識しています。

今期末には前期達成し得なかった「500億円以下」という目標に再度チャレンジし、在庫回転日数30日を目指してまいります。

EMSビジネスについて：メキシコ新工場建設

<目的>

- 今後ますます増大が見込まれる北米ならびに中南米市場向け生産需要に対応
- 最新の省エネ設備導入により、高効率で環境に配慮したモノづくりも推進
- 将来的には、「ユニット組立て」「電装基板実装」に加えて、「部品成型」「板金加工」「完成品組立て」の諸機能を備えた一貫生産体制へ

TAXAN MEXICO S.A. DE C.V.



新工場概要

所在地	: サンルイスポトシ州 アロヨス ミレニウム工業団地
従業員数	: 700人 (操業開始時点)
敷地面積	: 80,000㎡
建屋面積	: 20,000㎡
投資予定額	: 5年で約50億円 (土地、建物取得費含む)

主な生産品目

車載用照明ユニット組立て、
空調機器用電装基板組立て、など

操業開始

2024年4月 (予定)



30

次に、EMSビジネスについてご説明いたします。

まずは、メキシコの新工場建設について、でございます。

本件についてはすでにニュースリリースでも公表しておりますが、当社は100%子会社である「タクサンメキシコ」を通じて、メキシコで増大するEMS需要に対応するため、生産体制の拡充を進めております。

タクサンメキシコは、2017年の設立以来、米国市場向け四輪自動車用照明ユニットの組立てを中心にEMSビジネスを展開しておりますが、今般の新工場建設は、今後ますます増大が見込まれる北米ならびに中南米市場向け生産需要に対応するものであります。

また、最新の省エネ設備を導入し、生産効率が高く、環境にも配慮したモノづくりを一層推進するための施策でもあります。

さらに、将来的には、「ユニット組立て」「電装基板実装」に加えて、「部品成型」「板金加工」ならびに「完成品組立て」の諸機能を備えた一貫生産体制に拡充していく考えでございます。

当社は、このメキシコ新工場を起点として現地生産、最寄り生産を推進することで、運送期間の短縮、物流費の抑制を図り、製品を安定的に市場に供給できる体制を構築してまいります。

EMSビジネスについて：競争力の強化、生産能力の増強

- 海外（マレーシア、トルコ）の新工場建設に加え、国内工場でも生産設備を増強
- 国内外で生産能力を拡充し、多様化する顧客ニーズへの対応力を強化

マレーシア：工場移転・拡張		トルコ：工場移転・拡張	
	事業内容 各種電源製品の製造。衛生機器・産業機器・民生機器向け製品の基板実装		事業内容 空調機器向け電装ユニットの組立て。電動工具、車載機器向け製品の基板実装
	増強内容 SMT, DIPラインの増設 延床面積拡大		増強内容 組立ラインの増設 24年: SMTライン新設
加賀EMS十和田：設備増強		旭東電気：設備増強	
	事業内容 車載、医療機器関連、民生・産業機器、食品加工機器関連製品の基板実装		事業内容 車載関連、民生・産業機器関連製品の基板実装
	増強内容 SMTライン、自動組立ラインの増設		増強内容 SMTラインの増設（2本）



31

メキシコ以外にも国内外で生産能力の増強につとめており、こちらの4工場が直近2年間で設備増強を行った拠点であります。

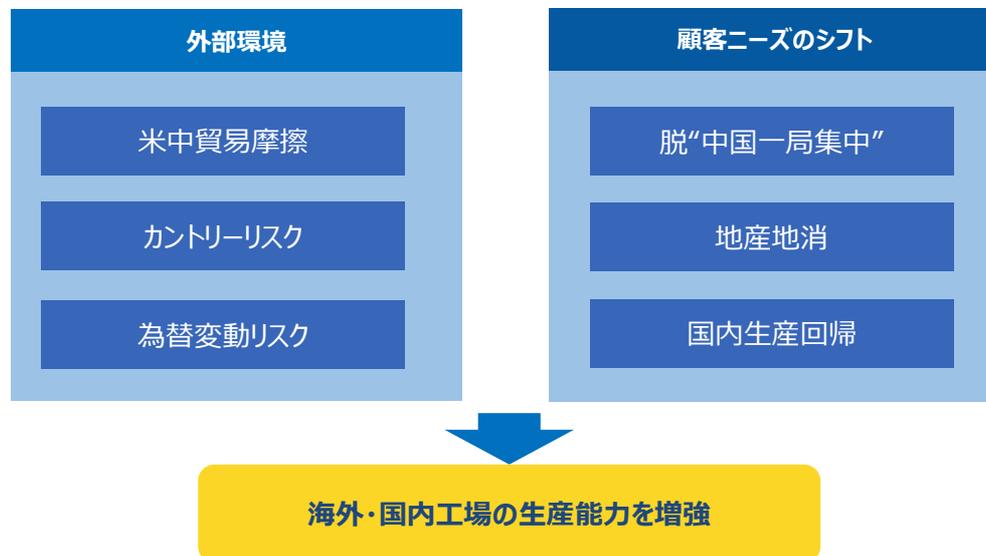
既存顧客からの受注増に対応するため、マレーシア工場は22年10月、トルコ工場は23年6月にそれぞれ移転・拡充を行い生産ラインを拡大しました。トルコ工場では現状の空調機器向け電装ユニットの組立てに加え、SMTラインを新設し、今後は基板実装も行えるようになります。

また、国内でも加賀EMS十和田で組立ライン1本、SMTライン1本を増設、旭東電気でもSMTラインを2本増設しています。

このように、国内・海外ともに各地域の状況に応じて生産能力を拡充することにより、お客様の多様化するニーズに対応しております。

EMSビジネスについて：生産能力増強の背景、事業環境の変化

ますます複雑化する事業環境とそれらに伴う顧客ニーズの変化を“追い風”として取り込み、機動的に海外・国内工場の生産能力を増強



こういった生産能力を増強している背景としましては、昨今の経済情勢における米中貿易摩擦のほか、カントリーリスク、為替変動リスクなど、外部環境がますます複雑化する環境のもと、それに伴いお客さまのニーズも大きく変化していることが挙げられます。

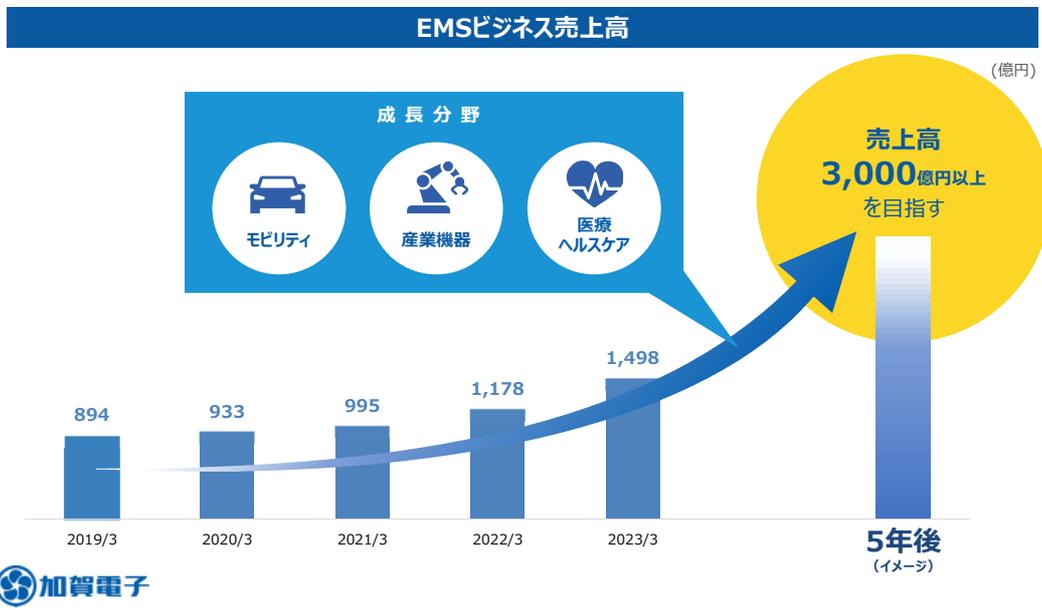
具体的には、中国一局集中型で完成品の生産を行っていたお客さまが、日本国内やアセアン、欧米など消費地に近いところで生産を行う「地産地消」にシフトする動きが見られます。

こうした複雑化する事業環境とそれらに伴う顧客ニーズの変化を“追い風”として取り込み、機動的に海外・国内工場の生産能力を増強している、ということであります。

今期より3年間は、EMSビジネスを急拡大させるための投資の期間であると考えております。

EMSビジネスについて：成長イメージ

「中期経営計画 2024」における成長分野である「モビリティ」、「産業機器」、「医療」等への注力により、5年後には売上高3,000億円以上を目指す



33

ここまで、EMSビジネスの強化に資する施策内容についてご説明しましたが、今後の成長イメージについてもお伝えしたいと思います。

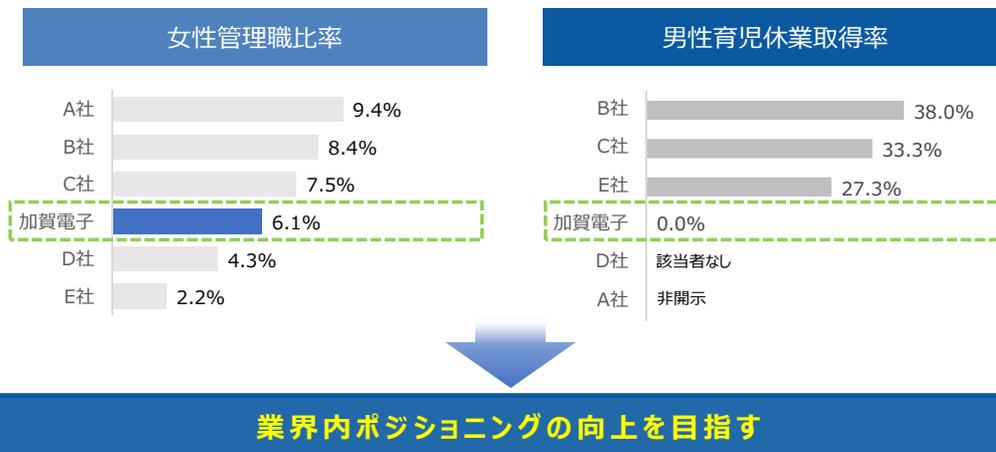
当社は、「中期経営計画2024」において、「商社ビジネスの拡大をEMSビジネスの成長につなげる」ことを基本戦略に掲げております。

これは、部品販売ビジネスにおける調達力を活かしボリュームの拡大を図るとともに、お客さまの「ものづくり」も支援させていただくことで高付加価値化を実現し、利益創出を極大化する、当社の強みを活かせる仕組みであります。

具体的には、これまでご説明しました各工場の生産能力増強を通じて、特に中計で成長分野と位置付けている、「モビリティ」、「産業機器」、「医療」などの分野に注力し、5年後を目途に売上高3,000億円以上を目指しております。

人的資本への取り組み

- 女性管理職比率は、業界平均並みも6.1%に留まる
- 男性の育児休暇取得の実績なし



(注) ・2023年3月期
・加賀電子は単体数値
(出所) ・各社有価証券報告書より当社調べ



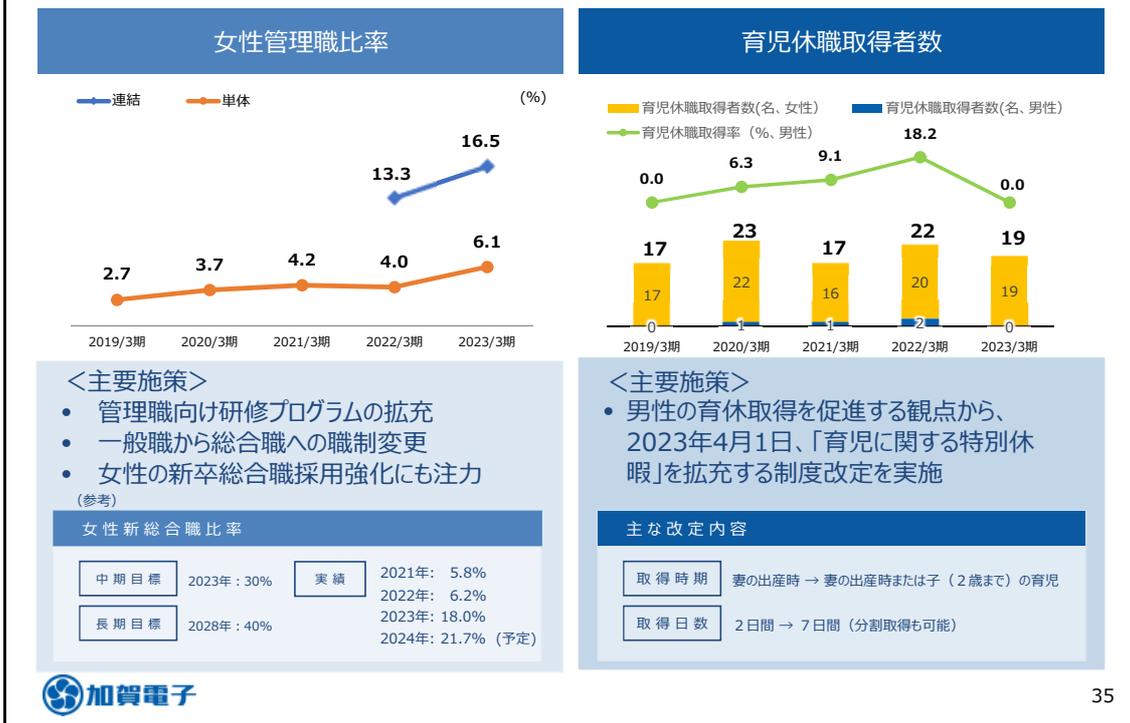
最後に、人的資本への取り組みについて、その中でも多様な働き方を活かすダイバーシティに関してご説明いたします。

こちらのグラフは、2023年3月期の女性管理職比率と男性の育児休業取得率について、同業他社と比較したものであります。いずれも、本年6月に開示された各社の有価証券報告書から、営業利益に関して、上位5社の開示データを引用したものです。

ご覧のとおり、当社の女性管理職比率は6.1%と、業界平均並みと認識していますが、決して高い水準ではないと考えております。
また、男性の育児休業については、昨年度取得者は「ゼロ」でした。

人材の価値を最大限引き出し会社の競争力を高めるためにも、積極的な投資を行い、業界でのポジションも高めてまいりたいと思います。

人的資本への取り組み



当社の実績について、時系列でもう少し詳しくご説明します。

女性管理職比率は、連結では海外子会社がけん引し、前期末時点で16.5%となります。「サステナビリティ中長期経営計画」で策定したとおり、2024年の目標を15%としておりましたので、前倒しで達成した、ということです。

一方、加賀電子単体で見ますと、まだまだアップサイドの余地があると考えており、管理職向けの研修プログラムを充実するなどの各種施策を展開しているところでございます。

次に、男性の育休につきましても、取得しやすい環境を整備するための制度改定を、今年の4月1日に実施いたしました。

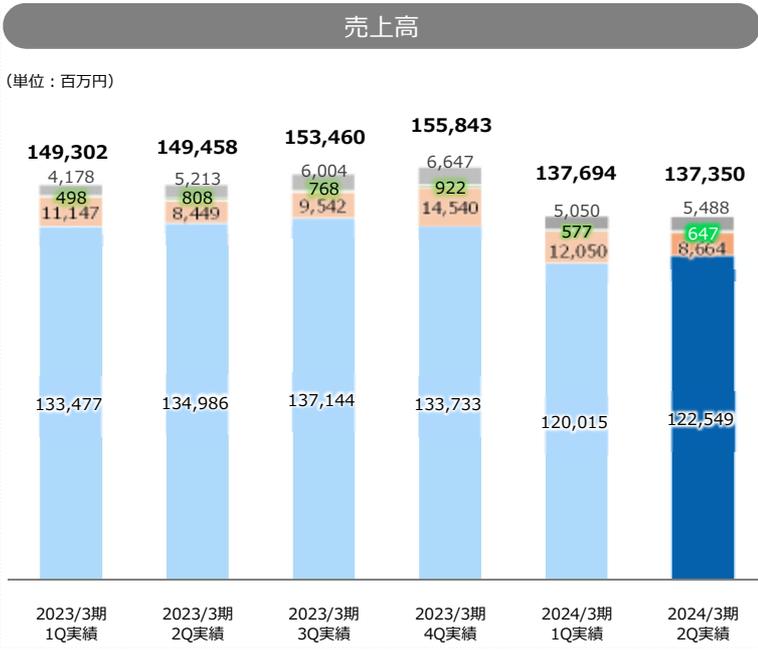
今後も社員一人ひとりの事情に合わせた多様な働き方を推進し、それぞれの価値を最大限引き出すことで競争力の維持・向上を図り、企業価値を高めていきたいと考えております。

わたくしからのご説明は以上であります。
ありがとうございました。

參考資料

2024年3月期第2四半期 セグメント別業績 (直近3カ月)

参考



連結合計
 前年同期比：▲12,108
 直前期比：▲343

その他
 前年同期比：+274
 直前期比：+437

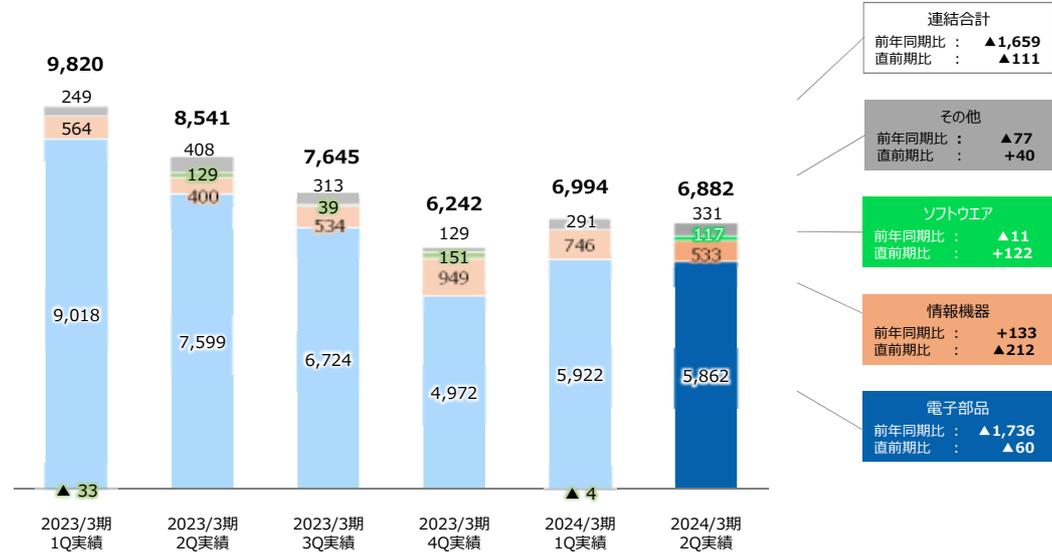
ソフトウェア
 前年同期比：▲160
 直前期比：+70

情報機器
 前年同期比：+215
 直前期比：▲3,385

電子部品
 前年同期比：▲12,437
 直前期比：+2,533

セグメント利益・営業利益

(単位：百万円)



(注)：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、連結合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

2024年3月期第2四半期：地域別売上高（直近3カ月）

参考

売上高

(単位：百万円)



連結合計
前年同期比：▲12,108
直前期比：▲343

欧州
前年同期比：+1,411
直前期比：▲263

北米
前年同期比：▲77
直前期比：+1,674

アジア
前年同期比：▲15,965
直前期比：▲2,873

日本
前年同期比：+2,523
直前期比：+1,117



為替レート／為替感応度

	2023/3期 2Q実績 (円)	2024/3期 2Q実績 (円)	(参考) 1%変動による影響額 (百万円)		2024/3期 前提 (円)
			売上高	営業利益	
米国ドル	133.97	141.00	1,088	17	135.00
人民元	18.94	19.45	151	12	19.50
タイバーツ	3.79	4.05	140	9	3.80
香港ドル	17.07	18.00	92	2	17.00
ユーロ	138.73	153.39	4	0.1	140.00

メモ

メモ

メモ

メモ

メモ

『すべてはお客様のために』



問合せ先：IR・広報部

〒101-8629 東京都千代田区神田松永町20番地

TEL:03-5657-0106

FAX:03-3254-7133

E-mail : webmaster@taxan.co.jp

<https://www.taxan.co.jp>

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を切り捨て

比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入